

編集委員

- ◎ 畠田 敏行* (茨城大学 全学教育機構)
 ○ 大野 賢一* (鳥取大学 学長室)
 末次 剛健志* (佐賀大学 総務部 企画評価課)
 関 隆宏* (新潟大学 経営戦略本部評価センター)
 橋本 智也* (四天王寺大学 IR・戦略統合センター／教育学部)
 藤井 都百* (九州大学 インスティテューショナル・リサーチ室)
 藤原 宏司 (山形大学 学術研究院)
 藤原 将人* (立命館大学 教学部 学事課)
 山本 鉦* (九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室)
 山本 幸一* (明治大学 教学企画部 教学企画事務室)
- ◎ 委員長 (編集長) ○ 副委員長 (副編集長) * 大学評価コンソーシアム幹事

編集後記

大学における教育改善のためには、十分なやる気もそうなのですが、情報が必要となります。大学評価や IR は、学内における教育改善情報を取り扱っています。大学評価セクションが把握した「現状」に関する情報は、どこまで (誰まで) 共有されているのでしょうか。また、IR セクションが把握した「現状」に関する情報も、どこまで (誰まで) 共有されているのでしょうか。

現状把握のための情報が、教育改善の役に立っているのか。大学評価や IR によって改善が促進されない、という場合、実はデータの収集や分析ではなく、そこから先の「流通」のところに目を向けなくてはならないと思います。教育改善のための情報のロジスティクスを考え行かないと、実は先に進めないのではないかと。最近、頓に思うところです。例えば、IR は必要な情報を必要とする方に必要な時に提供する機能ですが、「必要なだけ」という観点も必要なのかもしれません。もっとも、改善活動に際して「ファクトを提供するだけ」に留めておくのか、一步踏み込んである種のプロモーターになるのか。大学評価、IR の担当者の活動範囲は、今後、ますます広がっていくような気がしますし、さまざまな部署の業務の中に取り込まれていく気がします。いずれにせよ、この情報誌でそれらの動きを追って行ければ、と考えています。(湖)

発行日・発行者・著作権について

発行日：令和元年5月15日 (第10号)

発行者：大学評価コンソーシアム 編集者：大学評価コンソーシアム情報誌編集委員会

※ 著作権は、大学評価コンソーシアムに帰属します。ただし著者がこれらの全部ないし一部を著者自身で他に利用する (講演や教材で用いる等) 場合、その記事の出所を明示すれば足りるものとします。著者以外の方は、一般的な引用ルールに従ってご利用ください。

発行に関する助成について

この情報誌の発行は、平成27年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 基盤研究 (B) 「大学の評価・IR 機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」 (課題番号：15H03469、研究代表者：畠田敏行) の助成を受けています。

